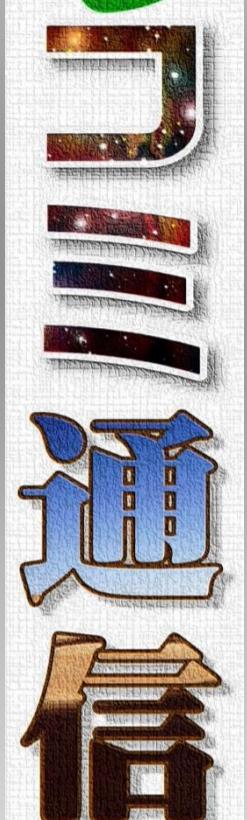




府中市CS協議会会長
立石克明 氏

第3分科会の3つの発表の中に、府中市立府中明郷学園の取組について発表が行われました。この学園は、地域の少子化により小学校と中学校が統合され、小中一貫校となりました。この学園のCSの特徴は、7年生と8年生に模擬会社を立ち上げさせたり、商品開発をさせたりする教育活動です。この学園の地域学校協働本部会長は地元の中小企業の経営者です。この方は「地元で働く人を育てたい」という思いでCS教育活動に中心となって活躍していました。子供たちだけでなく、大人にも地元の企業を知ってほしいという思いから『地域の中に学校を 学校の中に地域を』というスローガンが印象に残りました。



第8号
発行元
入谷小CS推進
委員会編集部



ホームページ
へのQRコード

8月2日(金)広島県府中市において『全国コミュニティ・スクール研究大会 in ひんご府中』が開催されました。南三陸町では、今年度からコミュニティ・スクール設置の入谷小学校と設置準備校の伊里前小学校より職員を派遣しました。大会は、(午前の)4つの分科会から開催され、全国各地の実践発表と課題について基調提案と有識者をパネリストとするシンポジウム、閉会行事が行われました。平成29年度から法制化されたコミュニティ・スクールは全国で7000校を越えました。大会開催県の広島県では、県立校の全部で順次設置が進む予定です。子供たちの教育が学校と地域の連携・協働により行われます。学校が示す教育ビジョンを家庭、地域と共有しながら「開かれた教育課程」を進め、「ソサエティ5.0時代」を迎える未来に対応できる人づくりを行っています。

「Society5.0」は人類史上5番目の新しい社会

キーワードは

IoT

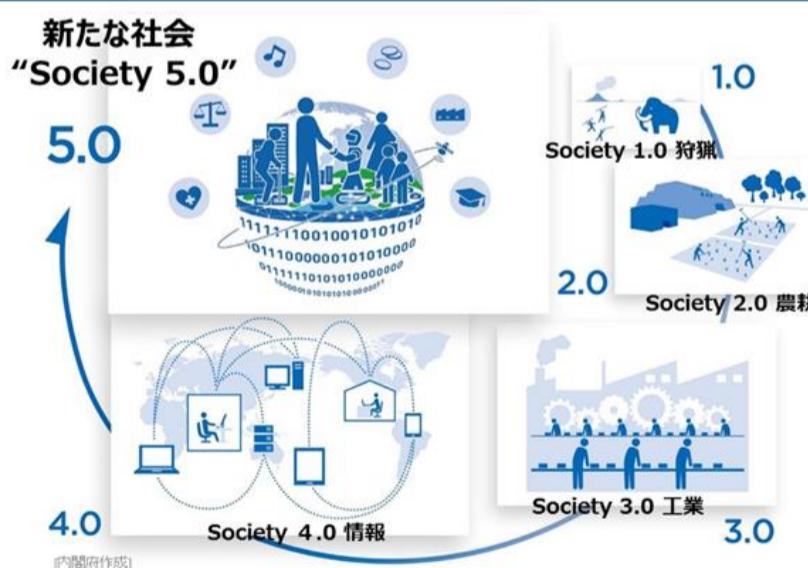
「IoT(Internet of Things)」

AI

「人工知能(AI)」



ソサエティ5.0「すぐそこの未来」篇
(WEB動画) <字幕版>



「Society5.0」とは、1.0は「狩獵社会」、2.0は「農耕社会」、3.0は「工業社会」、4.0は「情報社会」です。

「Society5.0」とは、日本政府による科学技術政策の基本指針のひとつで、科学技術基本法に基づき、2016年から5年ごとに改定されている「第5期科学技術基本計画」で登場したキャッチフレーズです。内閣府によると「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)」と定義されています。

シンポジウム【総括】 文部科学省 貝ノ瀬 滋 氏

「社会に開かれた教育課程」を実現し、コミュニティ・スクールを進めるためには下記のことが大切であるとの話をいただきました。

- ◆ 学校のリーダーが地域の方に方針を話し、教育を進めていかなければならない。地域と連携を進めていく。
- ◆ 縦軸だけでなく、他の小学校や地域と連携して横軸を広げていくこととする。地域学校協働活動とコミュニティ・スクールはパッケージである。
- ◆ 「一人一人が豊かで暮らす社会」は、学校だけに任せず地域と協働していかなければならない。

学校運営協議会との連携

